

主要産地における平成25年産水稻の収穫量及び作柄概況等について 第10報（平成26年3月20日現在） 作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成26年3月24日）

全 国 ・ 道 府 県	収穫量				作 況			品質概況等		参 考		
	収穫量 (主食用)	前年産主食用 収穫量	前年産収穫量 (確定値)との比較		作況指数 25年産	作況指数 24年産	前年産との比較 対 差	25年産水稻う るち玄米1等 米比率 (26年2月末)	24年産水稻う るち玄米1等 米比率 (25年2月末)	生産数量目標		
			対 差	対 比						平成26年産	前年産との比較	増減率
全 国	t	t	t	%				%	%	t	t	%
全 国	8,182,000	8,210,000	▲ 28,000	99.7	102	102	0	79.0	78.3	7,650,000	▲ 260,000	▲ 3.3
北 海 道	601,300	621,800	▲ 20,500	96.7	105	107	▲ 2	89.6	90.6	554,140	▲ 18,800	▲ 3.3
青 森	272,100	279,800	▲ 7,700	97.2	104	106	▲ 2	91.4	82.8	247,000	▲ 12,220	▲ 4.7
岩 手	287,800	292,900	▲ 5,100	98.3	102	105	▲ 3	95.6	94.0	275,540	▲ 10,810	▲ 3.8
宮 城	388,600	387,400	1,200	100.3	104	105	▲ 1	93.2	85.1	362,630	▲ 18,140	▲ 4.8
秋 田	450,200	450,400	▲ 200	100.0	100	100	0	91.9	85.8	433,040	▲ 13,390	▲ 3.0
山 形	386,100	380,500	5,600	101.5	102	102	0	95.2	88.2	358,570	▲ 15,630	▲ 4.2
福 島	368,600	367,600	1,000	100.3	104	104	0	91.7	88.5	348,420	▲ 7,440	▲ 2.1
茨 城	398,900	399,600	▲ 700	99.8	104	103	1	90.2	87.4	341,550	▲ 7,340	▲ 2.1
栃 木	334,900	331,300	3,600	101.1	102	101	1	88.0	93.1	309,330	▲ 12,220	▲ 3.8
埼 玉	165,900	168,600	▲ 2,700	98.4	98	99	▲ 1	65.3	45.6	152,680	▲ 3,920	▲ 2.5
千 葉	329,100	328,400	700	100.2	104	104	0	93.1	91.5	249,280	▲ 6,420	▲ 2.5
新 潟	594,400	598,700	▲ 4,300	99.3	103	104	▲ 1	76.7	65.1	535,640	▲ 10,030	▲ 1.8
富 山	198,200	194,600	3,600	101.8	102	100	2	71.5	76.2	192,340	▲ 3,920	▲ 2.0
石 川	130,500	132,000	▲ 1,500	98.9	101	101	0	82.6	84.8	126,400	▲ 3,000	▲ 2.3
福 井	134,700	131,800	2,900	102.2	102	100	2	82.6	87.9	128,130	▲ 5,230	▲ 3.9
長 野	213,000	205,000	8,000	103.9	101	98	3	96.0	93.5	196,640	▲ 7,760	▲ 3.8
滋 賀	169,300	170,300	▲ 1,000	99.4	102	102	0	59.0	83.0	163,380	▲ 7,000	▲ 4.1
兵 庫	189,800	188,300	1,500	100.8	100	100	0	40.6	55.0	181,930	▲ 6,010	▲ 3.2
岡 山	163,800	169,200	▲ 5,400	96.8	97	100	▲ 3	66.6	69.0	160,190	▲ 5,850	▲ 3.5
広 島	132,600	137,400	▲ 4,800	96.5	99	103	▲ 4	71.5	86.5	130,130	▲ 4,270	▲ 3.2
山 口	111,000	114,100	▲ 3,100	97.3	97	101	▲ 4	48.7	61.7	110,820	▲ 5,530	▲ 4.8
愛 媛	74,900	74,500	400	100.5	99	98	1	37.5	45.8	74,490	▲ 1,690	▲ 2.2
高 知	57,900	57,500	400	100.7	98	98	0	17.6	18.8	50,050	▲ 1,700	▲ 3.3
福 岡	182,500	185,700	▲ 3,200	98.3	96	98	▲ 2	30.3	36.5	184,380	▲ 6,860	▲ 3.6
熊 本	188,300	188,400	▲ 100	99.9	97	97	0	47.4	46.8	189,920	▲ 7,790	▲ 3.9
宮 崎	92,600	89,400	3,200	103.6	100	95	5	56.1	54.1	94,470	▲ 4,660	▲ 4.7
鹿 児 島	112,500	107,600	4,900	104.6	101	96	5	57.4	42.4	111,540	▲ 3,980	▲ 3.4

注1：収穫量、作況については、農林水産省大臣官房統計部の公表資料から抜粋。
 注2：水稻うるち玄米1等米比率、生産数量目標については、農林水産省生産局農産部の公表資料から抜粋。
 注3：更新箇所については、前回より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

道府県	品質概況等 自治体等公表資料（公表資料の抜粋）	備考 全農本部等の販売力強化に向けた取組み等 （ホームページ公表資料の取り纏め）
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川農業改良普及センター管内の今金町水稲直播研究会では平成24年から乾田直播栽培の取組みを始め、2年間の平均収量は513kg/10aで湛水直播栽培を上回り、移植栽培に匹敵（3月10日付） ・順調な登熟により磨米率は低下、アミロース含量は平年以下（1月14日付） ・12月13日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。若見沢市4.0万t、深川市3.1万t、美幌市2.2万tなど（12月13日付） ・平年に比べ全熟数はやや少ないものの、登熟は良好であった（12月6日付） ・ななつぼし玄米の外観は、白未熟粒（乳白粒、腹白粒）や青未熟粒、死米の混入がやや多い。これは天候不順等により刈取適期がやや遅れたことによる。胴割粒や着色粒の混入は少ない。形質について、光沢と粒形は良好である（精米工） ・ゆめぴりか玄米の外観は、ななつぼしと同様に白未熟粒（乳白粒、腹白粒）や青未熟粒、死米の混入がやや多い。これは天候不順等により刈取適期がやや遅れたことによる。胴割粒や着色粒の混入は少ない。形質について、光沢と粒形は良好である（精米工） ・10月前半は全道的に気温が高く、日照時間は少なかった ・9月の気温は高く日照時間は平年並～少なかった（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2年続けて平均精米タンク率が基準値に達しなければ、翌年は栽培できない」等、栽培、生産、出荷までの独自の厳しいルールを生産者同士で取り決めるなど全道統一のルール作りでお米の品質をチームで守る
青森	<ul style="list-style-type: none"> ・階上町農業再生協議会では、8割以上の水田で無人ヘリによる一斉防除を行った結果、登米比率は管内の平均07.9%を上回る93.8%となり、今後も高品質米生産のための無人ヘリ防除を実施する（12月28日付） ・総じて概ね天候に恵まれ、全熟数はやや多く登熟も順調であった（12月6日付） ・9月中旬の穂もちも、稲こうしの発生量はやや多かった（9月20日付） ・台風18号（9月16日上陸）による水陸稲の被害は758ha・216t（11月19日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかった（10月11日付） ・9月の気温は概ね平年並～高く、日照時間は上旬は少なく、中下旬は多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・県産銘柄米の需要拡大と定着化およびパルライスブランドを基本とした精米事業の拡大と地産地消の強化 ・産地精米等の取扱強化による精米販売数量の拡大
岩手	<ul style="list-style-type: none"> ・県中北部向け低アミロース水稲早生品種「きらほ」の試験栽培結果では、収量が500kg程度。次年度からは施肥管理による多収化と栽培面積拡大に取組む（3月6日付） ・直播栽培は栽培面積、取組経営体数ともに増加傾向。平成22年の主食用直播栽培面積は187haと10年間で10倍に（1月17日付） ・総じて概ね天候に恵まれ、全熟数はやや多く登熟も順調であった（12月6日付） ・ひとめぼれ玄米の外観は、白未熟粒（心白粒）の混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・青白の発現が少なく、青未熟粒及び胴割粒の混入も少なく良好。着色粒や死米の混入は少ない。形質は、光沢・粒揃い・粒形は昨年より良好（精米工） ・台風18号による水陸稲の被害は637ha・909t（11月19日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間はかなり少なかった ・9月の気温は概ね平年並～高く、日照時間は上旬は少なく、中下旬は多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心（農薬使用回数は通常の4分の1）、食味値での選抜、粒の大きさ（玄米粒2ミリ以上）こだわったひとめぼれを「いわて純情米プレミアム ひとめぼれ」として販売 ・担い手対応の充実に向けた、いわて純情米広域集出荷センターの稼働による集荷拡大
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の斑点米カメムシ類の発生量は平成11年頃から、斑点米による落等率は平成14年頃から増加。アサシカシカミカメが主要種（3月7日付） ・12月16日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。登米市5.8万t、大崎市5.4万t、石巻市1万tなど（12月16日付） ・（巨摩）全体として粒がやや小さかったものの、登熟歩合は高い（12月20日付） ・（大崎）幼穂形成期～減数分裂期に低温に遭遇したため、粒が小さくなった（12月6日付） ・（美里）玄米千粒重はやや低下。乳白は前年より少なく品質は良好（12月26日付） ・（登米）総粒数は平年並～やや多、千粒重は小であったが品質は良好（12月6日付） ・（栗原）前半の登熟は極めて良好。玄米タンク率は平年に比べて低くなり、食味は高くなった（12月18日付） ・（石巻）ひとめぼれ、ササニシキも前年より乳白粒等の白未熟粒少なく、登熟歩合は80%を超えて比較的良好（1月17日付） ・総じて概ね天候に恵まれ、全熟数はやや多く登熟も順調であった（12月6日付） ・ひとめぼれ玄米の外観は、白未熟粒（心白粒）の混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・青白の発現が少なく、青未熟粒及び胴割粒の混入も少なく良好。着色粒や死米の混入は少ない。形質は、光沢・粒揃い・粒形は昨年より良好（精米工） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～（沿岸部）かなり少なかった（10月11日付） ・9月の平均気温は高く、日照時間は多～かなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質、良食味米の取り組みとして「適期防除の実施」「適期刈取の推進」「基準を厳守した乾燥調製」「異品種混入のない米づくり」を実施中 ・米穀物流改革推進強化に向けた新運倉庫の設置による集荷拡大
秋田	<ul style="list-style-type: none"> ・12月26日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。大仙市6.2万t、横手市5.5万t、由利南庄市3.4万tなど（12月26日付） ・あきたこまち玄米の外観は、白未熟粒、青未熟粒の混入は少なく、昨年のような高温障害による影響は少ない。胴割粒、被害粒（奇形粒や砕粒）、着色粒（カメムシの被害による）、死米の混入は全般的に少なく良好であるが、地域による差がある。形質は、光沢、粒揃い、粒形は昨年より良好である（精米工） ・7月の日照不足の影響で全熟数はやや少なかったが登熟は順調であった（12月6日付） ・鹿角地域の1等米比率は93.5%で平年よりやや低く推移。等級低下の主原因は斑点米と胴割粒。千粒重は平年よりやや少ない状況（11月1日付） ・台風18号による水陸稲の被害は78ha・245t（11月19日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～平年並み（10月11日付） ・仙北地域の1等米比率は99.4%（10月4日付） ・9月の気温は高く、日照時間は平年並～かなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な需要先に対応できる「あきたこまち」をはじめとした商品ラインナップの整備と、環境に配慮した低コスト・省力化生産が可能な「あきたecoらいず」の生産拡大に取組み、販売・流通体制を広域的に展開しながら販路拡大と流通量確保を推進 ・米穀の播種前・収穫前契約（三者契約・複数年契約含む）の拡大
山形	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄コーティング種子を用いた水稲直播栽培の作柄は良好。26年度の取組面積はさらに増加する見込み（1月6日付） ・12月25日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。鶴岡市5.7万t、酒田市4.1万t、庄内町2.0万tなど（12月25日付） ・山形県の水田直播栽培面積は1,453haで昨年より約120ha増加（12月17日付） ・全熟数は平年並みで登熟は順調であった（12月6日付） ・はえぬき玄米の外観は、白未熟粒（心白粒）混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・青白の発現は少ない。未熟粒の混入の多くは青未熟粒である。胴割粒、被害粒（奇形粒や砕粒）、着色粒（カメムシの被害による）、死米の混入は少なく良好である。形質は、光沢、粒揃い、粒形は昨年よりも良好である（精米工） ・10月上旬の平均気温は高く、日照時間は少なかった（10月11日付） ・9月の気温は高く、日照時間はかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「つや姫」のトップブランド定着に向けた取扱数量拡大
福島	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県農業総合センター浜地域研究所の作柄解析試験では、ひとめぼれは平年に比べ千粒重が小さかったものの、登熟歩合は高かった。コシヒカリは平年に比べm当たり穂数が多いものの、千粒重が小さかった。外観品質はひとめぼれは1等、コシヒカリは白未熟による2等であった（3月10日付） ・12月25日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。郡山市3.3万t、喜多方市2.5万t、会津若松市2.1万tなど（12月25日付） ・コシヒカリ玄米の外観は、白未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入も少ない。全体的に光沢があり、粒形・粒ぞろいも良好である。胴割粒は地域によりバラツキがある。着色粒はカメムシによるものが散見されるが、概ね普通である（精米工） ・ひとめぼれ玄米の外観は、白未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入も少ない。全体的に光沢があり、粒形・粒ぞろいも良好である。胴割粒は地域によりバラツキがある。着色粒はカメムシによるものが散見されるが、概ね普通である（精米工） ・全熟数はやや多く登熟も順調であった（12月6日付） ・収穫作業の盛期は平年と比べ県平均では3日、会津地方では6日早。成熟期に2回の台風があり倒伏面積が増したが、登熟歩合への影響は少ない状況。カメムシによる着色粒は出穂の早い品種や山間部で発生が目立った（11月22日付） ・10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は会津で平年並み～多く、中・浜通りは少～かなり少ない（10月11日付） ・9月の気温は高く、日照時間はかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の安全・安心の要望に応えるため、栽培履歴が確認された「JA米」の確立に取り組む ・生産者にとって作りやすい品種特性（耐倒伏性、品種収量安定性）の啓蒙を通じた米の県オリジナル品種「天のつぶ」の作付拡大

	品質概況等	備考
茨城	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年は5～6月に3回の大雨があり、水を被った水田で黄化萎縮病（発病すると奇形・不稔が生じるとともに平年に比べ収量がかなりの減収となる）が多発した（2月27日付） 茨城県の直播栽培は県央、県南、県西を中心に面積が増加。栽培面積は239ha（12月16日付） 12月20日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。筑西市3.2万t、福敷市2.6万t、つくば市1.7万tなど（12月20日付） 全熟数はやや多く登熟は平年並みであった（12月6日付） 台風18号による水陸稲の被害は338ha・100t（11月19日付） コシヒカリ玄米の外観は、基部や背部に僅かに白濁したものが多く混入していることから、全体に白度がやや高めである。全体的に僅かに高温障害の影響を受けているように感じられる。胴割粒の混入は全体的には少ない。着色粒の混入は平年より少ないが、茶米や発芽粒の混入が見られる。2等以下については、軽度白濁したものが多くことから形質や充実不足によるものが多いように感じられた（精米工） 9月の気温は高く日照時間は平年並～多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の安全・安心へのニーズに応え、JA米や契約生産・契約販売を拡大 「ふくまる」「はるみ」の販売に連動した品種作付提案
栃木	<ul style="list-style-type: none"> 水稲新品種「とちぎの星」は下都賀管内で144haの作付。平均収量は556kg、1等米比率は98%と収量・品質とも良好。平成26年度では600haの作付見込（3月12日付） 下都賀地域では近年綿葉枯病が増加。コシヒカリ等の作付面積の多くで発病が確認され、圃場によっては甚大な被害を受けた。対応策として県は抵抗性品種である「とちぎの星」「あさひの夢」の作付割合を増やすよう指導（1月14日付） 芳賀地域の25年度産米の品種構成はコシヒカリ93.0%、あさひの夢6.3%、とちぎの星0.4%、なすひかり0.1%であった（1月14日付） 12月17日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。大田原市3.4万t、宇都宮市3.2万t、那須塩原市2.3万tなど（12月17日付） 平成26年度は例年同様になすひかり種子が供給できる見込みであるが、種子予約数量からは減産の懸念も（12月3日付） コシヒカリ玄米の外観は、白未熟粒の混入がやや目立つものがあるものの、昨年のような高温障害による腹白・背白の発生は少ない。未熟粒の混入のほとんどは青未熟粒である。胴割粒、被害粒（奇形粒や砕粒）、着色粒（カメムシの被害による）、死米の混入は全般的には少ないが、地域による差がある。形質は、光沢・粒揃い、粒形とも昨年より良好である（精米工） 全熟数はやや多く登熟は降雨による倒伏等から平年並みであった（12月6日付） 今年は普通栽培でも出穂以降高温で経過し、胴割れが発生しやすい気温条件。登熟期に断続的に降雨があり、立毛状態での同割れ発生の心配も（10月10日付） 10月上旬の平均気温はかなり高く、日照時間は少～かなり少なかった（10月11日付） 9月の気温は全般的に高く、日照時間も全般的にかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 播種前、収穫前契約による栃木米の安定的取引の拡充と集荷拡大
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> 高温耐性、綿葉枯病抵抗性品種としてキヌヒカリに替わる中生品種「彩のきずな」一彩のみにりに替わる中晩生品種「むさしの26号」を育成（3月12日付） 早期栽培「コシヒカリ」の品質は整粒粒比が58.0%（+7.5）と高く、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒を合わせた白未熟粒の割合は8.9%（-6.5）と低かった。その他未熟粒比は26.2%（+0.5）と平年並みだった。登熟期間に高温だったが、乳白粒、基部未熟粒が少なく外観品質は悪くなかった。子実タンパク質含有量は6.5%（±0）と平年並みだった（12月25日付） 早稲栽培「彩のかがやき」の品質は整粒粒比が57.0%、乳白粒、基部未熟粒、背白未熟粒を合わせた白未熟粒の割合は16.3%で、その他未熟粒比が14.9%と平成23年並みだった。しかしながら、この平均値は品質が悪い平成22、24年の値を含んでおり、平成20～21年の平均値の整粒粒比81.1%と比較すると明らかに劣り、本品種本来の水稲には達していないかった。子実タンパク質含有量は5.7%（-0.1）と平年並みだった（12月25日付） 普通期栽培「朝の光」の品質は整粒粒比が61.7%（-9.4）と低かった。乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒を合わせた白未熟粒の割合は12.4%（+1.9）とやや高く、その他未熟粒比が7.1%（-1.9）とやや低かった。子実タンパク質含有量は7.3%（+0.2）と平年並み。整粒粒比が低くなったのは、登熟期の高温や台風による倒伏が影響し、外観品質がやや低下したと考えられた（12月25日付） 普通期栽培「キヌヒカリ」の品質は整粒粒比が63.5%（+1.7）と平年並みだった。乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒を合わせた白未熟粒の割合は9.5%（+0.4）と平年並みで、その他未熟粒比は4.9%（-3.6）とやや少なかった。子実タンパク質含有量は7.1%（+0.4）と平年並みだった。総じて外観品質は平年並みだった（12月25日付） 県東部の全熟数はやや多く登熟はやや不良、県西の全熟数はやや少なく登熟は平年並みであった。高温障害面積は31,300ha（12月6日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 「彩のかがやき」「コシヒカリ」を中心に各種媒体やイベントなどで積極的にPRし、埼玉県産米のブランド化と消費拡大を図る 米の収穫前契約、契約栽培の取引の取組強化
千葉	<ul style="list-style-type: none"> 下総地域の平成25年度産米は、乳白米による等級落ちが例年より多く見られた（12月24日付） 12月25日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。香取市2.5万t、市原市1.4万t、旭市1.3万tなど（12月25日付） 全熟数はやや多く登熟は平年並みであった（12月6日付） コシヒカリ玄米の品質は「ふさおとめ」より、未熟粒、胴割粒の混入が多い。籾の混入、着色粒はカメムシによるものが見られるが、概ね普通。精米白度は「ふさおとめ」「ふさこがね」より上がりやすい。精米にすると若干心白、腹白粒が目立つが概ね普通（精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> 良食味の早場米産地として、新米の香りを全国に先駆けて食卓に届ける役割を担い、生産履歴の記録により安全・安心を確保と安定した品質で良食味の「千葉米の花米」の生産に取り組み 米穀卸・実需者の動向調査をふまえた収穫前契約の促進
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度産の水稲は、早生品種、晩生品種の作柄は良かったものの、コシヒカリの品質が乳白粒など「しした」に若干大きく低下した地域があった（3月19日付） 10月末現在で岩船産コシヒカリの1等米比率は県内4産地区分の中で最も高いが、目標の1等米比率95%には届かず84%。関川、荒川、村上地区では90%以上を確保したものの朝日、山北、神林地区では80%台に留まるなど地域による格差が生じている（2月18日付） 12月24日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。新潟市10.6万t、長岡市6.2万t、上越市5.4万tなど（12月24日付） 平成25年度産米は土づくり肥料（土改資材）をしっかりと施用している圃場で収量・品質が向上（12月11日付） 新潟県の有機JAS認定面積は339haで93%（316ha）を水稲が占めている（12月9日付） 全熟数はやや多かった。登熟は地域差が見られるものの平年並みであった（12月6日付） 魚沼地区コシヒカリの玄米の外観については、肌ずれは見られず、光沢があり、粒ぞろいも良い。胚芽がやや目立つものも見受けられる。未熟粒では、青未熟粒が多く見られるが、白未熟粒は少ない。着色粒、死米については少ない。胴割粒は地域によってバラツキが見られる（精米工） コシヒカリ玄米の外観については、肌ずれが少なく、光沢もある。形質については、2等では青未熟粒がやや目立つが、1等では少なく、カメムシによる着色粒も少ない。胴割粒は地域によるバラツキが見られる（精米工） 県作物研究センター生育調査圃場での整粒歩合は70%でほぼ平年並み、玄米タンパク質含有量は5.7%でほぼ平年並み（11月1日付） コシヒカリの格落ち要因は青未熟、乳白粒、充実不足の順（11月1日付） 台風18号による水陸稲の被害は13,900ha・961t（11月19日付） 9月の気温は上旬は低く、中下旬は高かった。日照時間は上旬は少なく、中下旬は全般的に多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 生産者、関係機関と一体となって、高品質・良食味米の安定生産と環境にやさしい米づくりに力をいれ、おいしさ、安全・安心、環境保全日本一の「新潟米」を目指す 早期の需要確保と卸・実需者との結び付き強化に向けた播種前・収穫前契約の推進
富山	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリの胴割粒発生は適期収穫等により軽減できたが品質は昨年並み。主な格下げ理由は白未熟粒（11月29日付） 12月16日付で平成26年度米の市町村別生産数量目標を設定。富山市4.0万t、南砺市2.3万t、高岡市1.8万tなど（12月19日付） 全熟数は平年並みで登熟はやや良となった。高温障害面積は39,700ha（12月6日付） 玄米の外観については、基部にわずかな白濁があるものや全粉状の白未熟粒が見られるものがあった。肌ずれなどがあり、光沢がやや劣るものも見られた。胴割粒は、地域によりバラツキが見られる。カメムシによる着色粒は比較的少ない（精米工） 出穂期以降は好天で経過したことから登熟はやや良（10月30日付） 9月の気温は平年並み、日照時間はかなり多かった（10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 富山米ブランドの確立に向けた県行政とのタイアップによる首都圏での販売促進キャンペーンの実施、産地精米の拡大

	品質概況等	備考
石川	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリの玄米の外観については、地域により肌ずれが目立ち、光沢が少ないものもあるが、全体的には、粒ぞろいも良く、青未熟粒、白未熟粒ともに少ない。胴割粒は地域によるバラツキが見られる。カメムシ等による着色粒の混入も少ない（精米工） 全熟数は昨年並み、降雨による倒伏が見られたものの概ね好天に恵まれたことから登熟も昨年並み（10月30日付） 9月の気温は昨年並、日照時間は多〜かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質で安心できる石川米のために「種子は契約圃場で計画的に生産」「品質と食味の向上、安全安心への生産指導を徹底」「刈取後の管理も徹底し、高品質の米に調整」「産産物検査を適正に実施」「品質維持のため、倉庫での保管管理を徹底」「輸送段階での管理の徹底」「卸や消費者の意見を産地へ届ける」 石川県産米の需要定着に向けた播種前・収穫前契約の拡大
福井	<ul style="list-style-type: none"> 12月26日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。福井市2.7万t、坂井市2.2万t、大野市1.4万tなど（12月26日付） 全熟数は昨年並みで登熟はやや良となった。高温障害面積は26,500ha（12月6日付） 出穂最盛期後20日余りの間は高温多照で経過（10月30日付） 台風18号による水陸稲の被害は180ha・275t（11月19日付） 2等以下格付け理由は中生や晩生品種の乳白、胴割米など（10月31日付） 9月の気温は昨年並、日照時間は多〜かなり多かった（10月9日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 福井米の安定品質確保のために「食味評価特A評価定着のための技術指導の推進」「県下全域でエコファーマーを推進」「適期田植えと直播栽培の徹底」「土づくり適切な水管理の徹底」「適正作付比率の推進」
長野	<ul style="list-style-type: none"> 12月5日に開催された長野地域水田作検討会において高温登熟障害について重点的に検討を行い、クマヒカリから「風さやか」への品種更新推進を確認（12月13日付） 12月16日付で平成26年産米の地方事務所別生産数量目標を設定。松本4.6万t、土伊那3.0万t、佐久2.5万tなど（12月16日付） 全熟数は昨年並みで登熟はやや良であった（12月6日付） コシヒカリ玄米の外観は、白未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入も少ない。地域によりわずかに肌ずれが見られるものもあるが、全体的に光沢は概ね良好であり、粒形・粒ぞろいも良好である。胴割粒は地域によりバラツキがあり、軽度で割れが入った粒が見られる。着色粒の混入は少ない（精米工） あきたこまち玄米の外観は、白未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入も少ない。光沢・粒形・粒ぞろいも良好である。胴割粒は地域によりバラツキがあるが、全体的には少ない。着色粒や死米の混入は少ない。（精米工） 病虫害や風水害などによる被害は昨年並み（10月30日付） 斑点米カメムシ類の発生量兩倍及び中信地方の一部で多かった（9月9日付） 9月の気温は昨年並、日照時間はかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 県内取引先との連携を強化した長野県内シェアの拡大
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> 県では「みずかがみ」を近江米の主力品種として育てていくこととし、平成26年産で1,000ha、平成27年産で2,000haの作付をめざす（グリーンカルチャー甲賀1月） 12月24日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。東近江市2.8万t、長浜市2.5万t、高島市・近江八幡市1.5万tなど（12月24日付） 全熟数はやや多く登熟は昨年並みであった（12月6日付） 台風18号による水陸稲の被害は782ha・370t（11月19日付） 9月の気温は上旬は低〜かなり低く、中旬は昨年並〜高かった。日照時間は上旬は少〜かなり少なく、中旬はかなり多かった（10月1日付） 	<ul style="list-style-type: none"> より消費者ニーズに合った、安全で安心なおいしい近江米づくりをめざして、滋賀のJA米の確立や環境にこだわった農業の推進を図るとともに、安定的な取り引きの拡大に関係機関一体となって取り組む 実需者と結び付いた米の播種前・収穫前契約販売の強化
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> 12月19日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。丹波市と豊岡市1.3万t、姫路市1.1万t、神戸市1.0万tなど（12月20日付） 出穂後の気温日較差・日照時間は概ね昨年を上回って経過したことから稔実は昨年並みとなったものの、高温で経過したことに加え台風やいもち病・ウンカ等の病虫害により登熟が阻害されたことから登熟はやや不良。高温障害面積は21,600ha（12月6日付） JAハリマ管内では、夏の高温や収穫時期の長雨による刈取時期の遅れがあり、1等米比率は10月末現在で78.4%。等級低下の第一位は乳白米（11月13日発行JAハリマの営農情報） 台風18号による水陸稲の被害は1050ha・229t（11月19日付） 10月のヒメトビウカの発生量は多いと予報（10月4日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 良質米づくりの重点目標（適期刈取の徹底、玄米水分14.5〜15%に統一、量目の統一、着色粒・胴割粒・乳白粒の発生防止の徹底、籾・麦・草種・石・土・砂など異物混入防止、乾燥調整施設の品質事故防止の徹底）を掲げ、その指導を実施
岡山	<ul style="list-style-type: none"> 12月20日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。岡山市3.9万t、津山市1.4万t、倉敷市1.2万tなど（12月20日付） 全熟数は多かったが、8月下旬から9月上旬にかけての停滞前線による天候不順の影響に加え、トビイロウンカやいもち病等の被害拡大により登熟が抑制・阻害されたことから登熟は不良。高温障害面積は10,300ha（12月6日付） 10月のトビイロウンカの発生量は多いと予報（10月2日付） 9月の気温は昨年並、日照時間は多〜かなり多かった（10月8日付） 	<ul style="list-style-type: none"> JAをコンピューターで結んだ「JA良質米情報ネットワークシステム」を活用し、各JA管内で栽培されたお米の中から、品質・食味ともに優れた地域で「うまい米」を厳選
広島	<ul style="list-style-type: none"> 12月19日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。東広島市2.0万t、庄原市1.8万t、三次市1.7万tなど（12月19日付） 全熟数は多かったが、8月下旬から9月上旬の曇雨天による影響及び9月中旬から10月中旬にかけての高温により稲の活力が低下したことから登熟はやや不良（12月6日付） 10月上旬の平均気温は昨年よりかなり高く、日照時間は昨年並み〜少なかった（10月11日付） 9月の気温は上旬はかなり低く、中旬は高かった。日照時間は上旬は少なく、中旬はかなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 精米販売の拡大対策として、JAグループを挙げた米頒布会の取り組みの実施
山口	<ul style="list-style-type: none"> 12月20日付で平成26年産米の地域農業再生協議会別生産数量目標を設定。山口中央2.10万t、下関1.8万t、あぶんど教1.1万tなど（12月20日付） 早生種では登熟期に高夜温が続いたことから充実不足となり、中・晩生種では9月下旬以降にウンカ被害が拡大したことにより登熟はやや不良（12月6日付） 8月末からの長雨と倒伏により収穫期が〜10日程度遅れたものが多く、またくず米が多く、上位等級比率も昨年より低く推移（10月2日付） 9月の気温は高く、日照時間は多かった 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫前契約、用途別結び付き玄米販売の拡大
愛媛	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年産から本格的な栽培が始まった今治支庁管内の「こまる」作付面積は、26年産では約3倍の100haに増加する見込み（2月13日付） ヒノヒカリ等の開花期に降雨が続き受粉不良となったことに加えて登熟期である9月中旬以降気温が高温で推移したこと及びウンカの被害が広範囲にわたったことから粒の肥大・充実が悪い。高温障害面積は11,000ha（12月6日付） アカスジカスミカメの誘殺数は昨年並み（10月3日付） 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズと適地適作を基本として、「売れる米づくり」とブランド化を推進 行政・JAと連携した多収性新品種「みつひかり」および高温耐性品種「こまる」の実証試験ならびに省力・低コスト技術（鉄コーティング湛水直播栽培）の普及試験の実施
高知	<ul style="list-style-type: none"> 12月26日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。南国市5,816t、高知市5,667t、四万十町5,266tなど（12月26日付） （普通栽培）7月以降の高温・少雨の影響により不稔もみの発生がやや多かったことに加え、稲体の消耗や病虫害の多発により粒の肥大・充実がやや不良となり登熟は総じて不良。高温障害面積は8,590ha（12月6日付） （早期栽培）7月上旬の梅雨明け以降、高温・多照で経過したことから、全もみ数が少ないことによる補償作産用が働き登熟はやや良（10月30日付） コシヒカリ玄米の外観は、7月の出荷り初期のものには青未熟粒の混入が多く見られた。8月になってからのものは、青未熟粒は減ったが、基部未熟粒を主体とした白未熟粒の混入が見られた。本年は、昨年より梅雨入り梅雨明けとも10日程度早く、梅雨の間の降水量は昨年並みよりやや多かったことから、かなり順調な生育であった。梅雨明け以降は降水量が少なかったことから生育が進み収穫期が早まり、青未熟粒などの混入が増えた。これまでの2等以下への落等の理由は、登粒不足・着色粒の混入などと思われる。なお、1等比率は低いものの、近年の作柄と比較すると、粒に光沢もあり、高温障害の影響が少ないことから、玄米の見目はきれいである（精米工） 	<ul style="list-style-type: none"> 特別栽培米や産地銘柄米の取組強化および良食味米をはじめとする高品質米生産の取り組み

	品質概況等	備考
福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州普及指導センター管内（北九州市、中間市、戸畑町、水巻町、岡垣町、遠賀町）では「元気つくし」の作付が増加、25年産では作付面積の約18%に（12月5日付） ・全籾数は平成並みであったが高温障害及びウンカによる登熟阻害が見られたことから登熟は平成に比べて低下（12月6日付） ・中・晩生品種でトビロウカによる「塚枯れ」が急激に拡大（9月25日付） ・9月の気温は平成並～高く、日照時間は多～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消・食育の取組強化に向けた学校給食米の一元供給および福岡県産米の新品種「元気つくし」の作付拡大
熊本	<ul style="list-style-type: none"> ・12月18日付で平成26年産米の市町村別生産数量目標を設定。熊本市2.4万t、八代市1.8万t、阿蘇市と玉名市1.2万tなど（12月19日付） ・天草地帯は全籾数がやや少ないものの概ね天候に恵まれたことから登熟はやや良、県南地帯は全籾数がやや少ないものの登熟は平成並み、県北地帯（全籾数平成並み）・阿蘇地帯（全籾数やや多い）は雨天、ウンカ被害等によりやや不良。高温障害面積は16,300ha（12月6日付） ・消費者の期待に応えることができる米を生産・出荷し県産米のブランド力や価値をさらに高め、有利な販売を展開し、農家所得向上につなげていくため、熊本県推奨うまい米基準（県推奨基準）を設定（10月24日付）（熊本県） ・9月において中生品種でトビロウカによる「塚枯れ」を確認（9月30日付） ・9月の気温は平成並～高く、日照時間は平成並～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・播種前・収穫前契約を基本とし実需者を特定した契約をすすめ、安定した販路確保を目指す。卸主体の玄米販売から、実需者との結び付きを意図した生産（川上）から精米販売（川下）までの一貫した事業展開により販売力を強化
宮崎	<ul style="list-style-type: none"> ・（早期栽培）全籾数はやや少なかった。出穂最盛期の低温寡照の影響はあったものの、7月以降は高温・多照で経過したことから登熟は平成並み（12月6日付） ・（普通栽培）全籾数はやや多くなった。9月上旬及び10月上旬の日照不足と多発したトビロウカの被害により登熟は不良（12月6日付） 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者や取引先の求める「安全・安心」に応える為に、生産履歴の記帳に取組み、更には残留農薬検査も行う
鹿児島	<ul style="list-style-type: none"> ・（早期栽培）全籾数はやや少なかった。梅雨明け以降、日照時間が平年を大きく上回ったことや気温日較差が大きかったことに加え、全もみ数がやや少なかったことによる補償作用もあり登熟は良（12月6日付） ・（普通栽培）全籾数は平成並み。出穂期前後は台風の影響により曇雨天日が続いたものの、それ以降は概ね天候に恵まれていることから登熟は平成並み（12月6日付） ・コシヒカリ玄米の外観は、出回り初期のものには青未熟粒の混入が多かったが8月中旬以降入手したサンプルでの混入は少なくなっていた。また、白未熟粒の混入は少なく、見目はかなり良い。着色粒はカメムシによるものが見られ、落等の要因になったものもあるが、総体的には少ない。登熟期（7月）は、気温がやや高めに推移し、降水量が少なく、日照時間が長かったことから、平年より早い出回りとなった。産地によっては、高温障害の影響によると思われる白未熟粒の混入が見られるが、混入は僅かである（精米工） ・9月の気温は高～かなり高く、日照時間は多～かなり多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・「担い手農家の経営規模に応じた事業提案力や支援対応力の強化」「消費者に届ける、安全・安心な農産物とコミュニケーション」等の視点から「生産基盤の維持強化につながる事業構築と農家所得の向上につながる販売機能強化およびコスト削減への積極的な取り組み」等を基本戦略として展開

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。
注2：備考欄のイタリック体はホクレン農業協同組合及び全農本部等のホームページで公表されている資料を基に取り纏め。ゴシツク体は全国農業協同組合連合会のホームページで公表されている資料から抜粋。
注3：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。
注4：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成25年度産水陸稲の収穫量(農林水産省、北海道農政事務所、東北農政局、関東農政局、北陸農政局、近畿農政局、中国四国農政局、九州農政局)、平成24年度産水陸稲の収穫量(農林水産省)、平成25年度産米の農産物検査結果(速報値/平成26年1月31日現在)(農林水産省)、平成24年度産米の農産物検査結果(速報値/平成25年1月31日現在)(農林水産省)、平成25年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、平成26年度産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)、被害応急調査結果(平成25年7月～9月)(農林水産省)、一般社団法人日本精米工業会「平成25年度米質概況情報」(8/22、8/28、9/20、10/21、11/1、11/19、11/21、11/29、12/4、12/5)

普及センターだより第30号(北海道檜山農業改良普及センター)、平成26年営農改善指導方針(北海道農政部)、平成26年度産米に係る市町村別生産数量目標について(北海道)、農作物の生育状況(10月15日現在)(北海道)、石狩・空知・後志農業気象速報第35巻第21号(石狩振興局・空知総合振興局・後志総合振興局・札幌管区気象台)、みどりの通信平成25年度第2号(青森県三八地域農林局地域農林水産部)、平成25年度水稲病害虫発生状況第3号(9月中旬)(9月20日)(青森県病害虫防除所)、青森県農業気象速報第34巻25～27号(青森県、青森地方気象台)、低アミノ酸米「きらほ」取り組みについて(いわてアグリベンチャーネット 3月6日)、岩手県—水稲直播面積の推移(岩手県ホームページ)、岩手県農業気象速報第34巻25～28号(岩手県、盛岡地方気象台)、登米地域の稲作通信特別号(登米農業改良普及センター)、平成26年度産米の市町村別の生産数量目標の算定方法等について(宮城県農業再生協議会)、平成25年度稲作情報総括号(宮城県亘理農業改良普及センター)、平成25年度稲作技術情報(総括)(宮城県大崎農業改良普及センター)、平成25年度産美里地区の稲作状況第10号(総括号)(宮城県美里農業改良普及センター)、登米地域の稲作通信総括号(宮城県登米農業改良普及センター)、栗原の稲作通信平成25年総括号(宮城県栗原農業改良普及センター)、稲作情報(総括号)(石巻農業改良普及センター)、宮城県農業気象速報第34巻28号(宮城県、仙台管区気象台)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標の算定方針(秋田県)、平成25年度生育状況報告11月1日号(秋田県)、秋田県農業気象速報第34巻25～28号(秋田県、秋田地方気象台)、やまがたアグリネット「1月の農業情報」(山形県)、やまがたアグリネット「10月10日号」(山形県)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標(山形県)、山形県農業気象速報第4巻25～28号(山形県、山形地方気象台)、浜通通信第9号(福島県農業総合センター浜地域研究所)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標(福島県)、主要な農作物の生育状況平成25年度第8号(福島県)、福島県農業気象速報第34巻25～28号(福島県、福島地方気象台)、宮農アドバイス(茨城県農業総合センター)、平成26年度産米の生産数量目標について(茨城県)、茨城県農業気象速報第34巻25～27号(茨城県、水戸地方気象台)、下都賀管内とちぎの星通信No.6(栃木県下都賀農業振興事務所)、平成26年度稲作に向けて綿葉枯病予防対策を行いましょう(栃木県下都賀農業振興事務所)、平成25年度水稲麦大豆の成績について(栃木県芳賀農業振興事務所)、平成26年度産米の市町村別の生産数量目標の設定方針(栃木県)、稲・麦・大豆から版第6号(栃木県塩谷南那須農業振興事務所)、平成25年度水稲生育診断予測事業速報No.10(10月10日現在)(栃木県)、栃木県の平成25年9月の気象(速報)(10月1日)(宇都宮地方気象台)、栃木県農業気象速報第34巻28号(栃木県、宇都宮地方気象台)、水稲の高温耐性及び綿葉枯病抵抗性新品種の育成状況(埼玉県水田農業研究所)、平成25年度水稲の作柄について(埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所)、乳白米を防ぎ米の品質向上を目指します(平成26年2月24日)(千葉県印旛農業事務所改良普及課)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標(千葉県)、上越農業情報2014年(上越地域農業振興協議会)、うまい岩船米づくり情報No.1(岩船米技術者会議ほか)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標の設定方法等について(新潟県農業再生協議会)、売れる米づくり技術対策資料No.8(新潟県地域振興局農林振興部新潟農業改良普及指導センター)、新潟県における有機農業の現状(新潟県ホームページ)、平成25年度産米の作柄概況等について(第12号)(新潟県)、新潟県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(新潟地方気象台)、平成26年度産米の市町村別の生産数量目標について(富山県)、富山NOWNOW情報第67号(富山農林振興センター諏訪川原庁舎)、富山県の気象・地震概況平成25年9月簡易版(富山地方気象台)、石川県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(金沢地方気象台)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標の設定方針(福井県)、今月の農業技術(水稲 11月)(福井県ふくいアグリネット)、福井県の気象・地震概況平成25年9月(簡易版)(福井地方気象台)、平成26年度産米の地方事務所別生産数量目標を決定しました(長野県)、長野地域の情報(長野県農業改良普及センターホームページ)、8月下旬の水稲巡回調査結果の概要等について(9月9日)(長野県病害虫防除所)、平成25年9月の長野県内の天候(長野地方気象台)、グリーンカルチャー甲賀冬号(滋賀県甲賀農業農村振興事務所)、平成26年度産米の市町村別の生産数量目標について(滋賀県農業再生協議会)、滋賀県農業気象速報(滋賀県、彦根地方気象台)、平成26年度産米の市町村別の生産数量目標の決定について(兵庫県)、JAハリマホームページ、平成26年度産米の市町村別生産数量目標について(岡山県)、平成25年9月の天気概況(岡山地方気象台)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標について(広島県)、広島県農業気象速報第33巻25～28号(広島県、広島地方気象台)、平成26年度産米の地域別生産数量目標の配分について(山口県)、平成25年度農作物病害虫発生予察9月月報(山口県病害虫防除所)、山口県気象月報平成25年9月(下関地方気象台)、県内各地域の農業・農業者の動向報告(2月上旬)(愛媛県農産園芸課)、2013年(平成25年)調査データ「水稲害虫」(10月3日更新)(愛媛県病害虫防除所)、平成26年度産米の市町村別の生産数量目標について(高知県)、八幡農林事務所北九州普及指導センター活動情報No.26(福岡県)、平成25年度病害虫発生予察警報第1号について(福岡県病害虫防除所長)、福岡県気象月報(福岡管区気象台)、平成26年度産米の市町村別生産数量目標について(熊本県)、平成25年度病害虫発生予報第7号(10月予報)(熊本県病害虫防除所)、熊本県気象月報(熊本地方気象台)、鹿児島県気象月報(鹿児島地方気象台)

注:追加箇所については下線で表した。